

△ 注 意 使 用 上 の 注 意	清 掃	配管内のパイプ切削屑などの異物を取り除くため、使用前には全バルブを全開にして念入りに清掃やフラッシングを実施してください。 弁座に異物が噛み込まれると、弁座漏れの原因となる恐れがあります。
	増 し 締 め	パッキン仕様の仕切弁、玉形弁はパッキンの応力緩和による漏れの発生が考えられます。使用前にパッキン押さえナットの増し締めを実施してください。点検時にも増し締め・交換を実施してください。パッキンからの漏れがある場合は、1回の増し締め量は1/4回転程度とし、ハンドルを開閉方向に回しながらゆっくり増し締めしてください。過大なトルクでの増し締めは、バルブの操作トルクの上昇や、破損につながる恐れがあるのでご注意ください。
	水撃の防止	流体が液体の場合、水撃作用(ウォーターハンマー)を発生させないように、ゆっくりと開閉操作を行ってください。
	流体の影響	逆止め弁は流体の脈動により、チャタリング(弁体振動による音鳴り)が発生し、弁箱や弁体が損傷する場合があります。ポンプやレジューサ・エルボ付近での配管を避け、静流域で配管されることを推奨します。 ●ポンプ出口に設置する場合は、製品サイズの6倍以上離してください。 ●レデューサーやエルボ近くに設置する場合は、製品サイズの4倍以上離してください。(例:3/4インチの呼び径であれば $20 \times 4 = 80\text{mm}$ 離す)
	差圧の影響	逆止め弁は、逆圧は0.05MPa以上の差圧でお使いください。それ以下で使用するとシート漏れの恐れがあります。また固形物を含む汚物汚水ラインには、0.05MPa以上の差圧があっても逆止め弁は使用できません。 ストレーナにおいては圧力損失は、0.1MPa以下でご使用ください。
	凍 結	寒冷地で使用される場合、配管内や製品内部に残った水の凍結により、製品が破損する恐れがあります。凍結が予測される環境下では、バルブを全開または半開にして残留水を除去するや、バルブ・配管の保温施工を行ってください。
	耐 圧	配管の末端にバルブを取り付けて配管の耐圧検査される場合は、万一の事故を防止するためにプラグを取り付けてください。
メン	テナ	長期にわたり安定して使用していただくために、日常点検・定期点検を行ってください。詳細は日本バルブ工業会発行の「JV3:バルブユーザーガイド」、または、弊社総合カタログ記載の内容を参照ください。 また、Y形ストレーナは定期的にスクリーンの清掃をしてください。特にメッシュの細かいスクリーンはごみ詰まりの期間が短いため、早期にスクリーンが破損する恐れがあるため、メンテナンス期間を短くしてください。スクリーンの清掃時は、ガスケットは必ず交換してください。ガスケットは再利用できません。

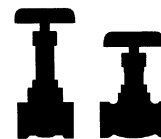
TM2301

首都圏
第1・2営業所
関 西
第1・2営業所
東北営業所
北関東支店

TEL (03)3492-6221
TEL (06)6538-2371
TEL (022)748-5524
TEL (049)265-8445



札幌営業所 TEL (011)816-8280
横浜営業所 TEL (045)308-8091
名古屋営業所 TEL (052)938-6200
九州営業所 TEL (092)707-2056
広島営業所 TEL (082)569-5755
彦根工場 TEL (0749)28-0643



ねじ込み形 ステンレス弁

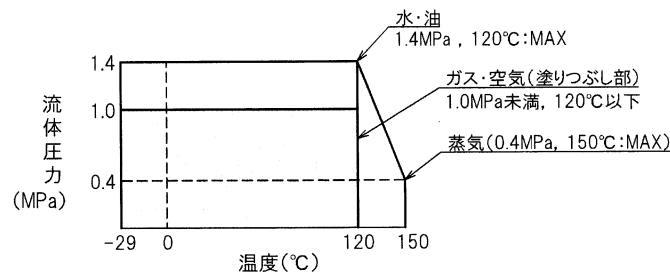
配管設計施工要領・注意書



この度は、大和バルブ製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
バルブを正しく配管・使用していただくために、配管施工前に必ず当書をお読み下さい。

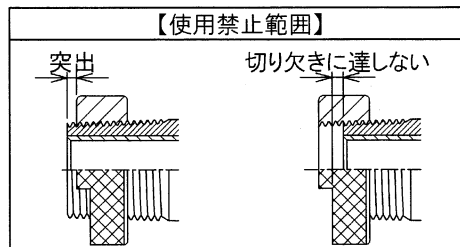
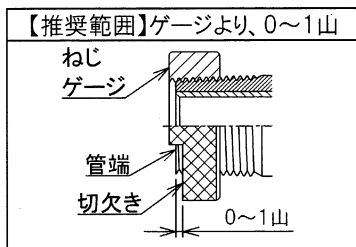
- ここに示した注意事項は製品を正しく施工するためのもので、関係者への危害や損害を未然に防止することを目的としています。
- 危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに区分しています。
「警告」:内容を守らなかった時に、関係者が死亡または重傷を負うかまたは製品機能に致命的な悪影響を及ぼすことが想定される場合
「注意」:内容を守らなかった時に、関係者が重傷や障害を負うか、物的損害が発生する危険な状態が生じる可能性がある場合、または製品機能の一部に悪影響を及ぼすことが想定される場合

保 管 製 品 仕 様	△ 警告	バルブの改造は絶対に行わないで下さい。
	△ 注意	－10℃以下の低温、又は40℃以上の高温・多湿・振動のある場所に保管しないでください。ごみ、ほこりがバルブに入ったり、付着しないように保管してください。 運搬保管の際、製品を落下させたり、衝撃を与えたり、過度の荷重を掛けしないでください。機能不良や弁座漏れの原因となります。
	●弁種および製品記号	内ねじ式仕切弁[S10SG] 内ねじ式玉形弁[S10SS] スイング式逆止め弁[S10SC] Y形ストレーナ[S10SY]..... ※ 蒸気対応品は特殊ガスケットのこと ●流体 給水・給湯設備、空気設備、機械設備における水、油、ガス、空気、蒸気。 但し、可燃性ガスおよび毒性ガスは除く。また流体は凍結しないこととする。 油は、危険物に関する政令に定める特殊引火物や第一石油類、アルコール類は使用不可。 ●圧力・温度基準



△注意
管の加工

- 管の切断は、自動帯ノコ機などを用いて、管軸に対し直角に切断してください。
- 管のおねじは、JIS B 0203規格に規定されたねじを切ってください。
推奨範囲(ゲージ出代)は【0～1山】です。
- ゲージから突出する細いおねじや、ゲージ切欠きに達しないねじは使用不可です。
ねじ込み時にバルブを変形・損傷し、漏れの原因になります。
- 加工後は、ねじ部や内面に付着した切粉・切削油・ゴミ等を除去してください。



△注意
ねじ込み

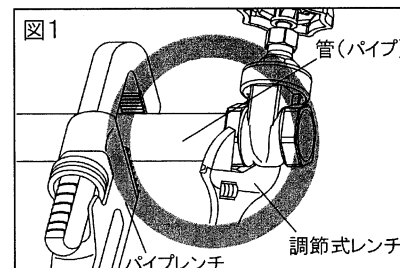
- 玉形弁と逆止め弁・Y形ストレーナには流れ方向の指定があるため正しく接続して、指定の取付姿勢以外では使用しないでください。
また、スイング式逆止め弁の弁内には、詰め物が入っているので、必ず取り除いてください。
- 塩ビ製バルブソケットを使用する場合は、シールテープを巻き過ぎるとねじ込みにくくなるため注意してください。
- 配管のおねじ部の先端から1～2山の間をあけてシールテープを適量巻くか、液状シール剤を適量塗布し、工具を使用しないで、手でねじのはめ合いなどを確認しながらいっぱいにねじ込んでください。
- 次に管をパイプバイス等で固定し、管に近い側の製品のスパナ掛け部のみに二面幅の調整のきく適切な工具(パイプレンチは使用不可)を掛け、製品をねじ込んで下さい。
(下表、および3ページ目の図も参照してください)
- また、弁棒が変形する恐れがあるため、ハンドルを掴んでねじ込まないでください。
- 液状シール剤を使用する場合は、使用流体・温度に適したものを選定し、必ずおねじ部に適量塗布し、メーカー規定の養生時間を置いた後、通水してください。

ねじ込み山数と標準締め付けトルクの一覧表 (おおよその目安としてください)

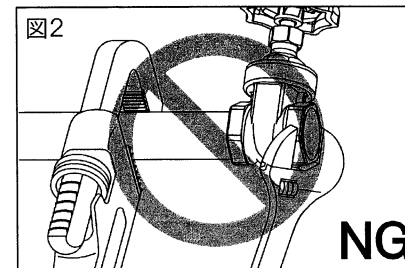
呼び径 (B)	手締めでの ねじ山数	手締めでの かみ合い(mm)	手締め後の レンチ締め山数	標準ねじ込み ねじ山数	標準締め付け トルク(N・m)
1/2	3～4	5.5～7.0	1.5	4.5～5.5	25～35
3/4	3～4	5.5～7.0	1.5	4.5～5.5	40～50
1	3～4	7.0～9.0	1.5	4.5～5.5	50～60
1 1/4	4～5	9.0～11.5	1.5	5.5～6.5	60～70
1 1/2	4～5	9.0～11.5	1.5	5.5～6.5	70～80
2	4～5	9.0～11.5	2.0	6.0～7.0	80～90

△注意
ねじ込み

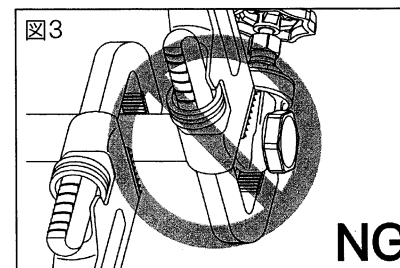
パイプレンチの使用は局部的に製品を変形させたり、薄肉部が発生することで漏れに繋がる恐れがあるため行わないでください。製品を直接バイスなどに固定することも製品を変形させ漏れに繋がる恐れがあるため、絶対に行わないでください。



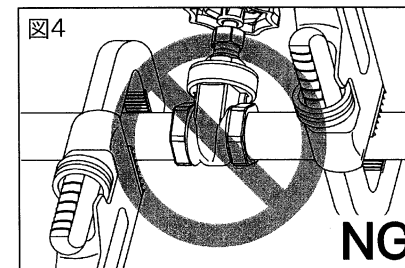
管を固定し、管に近い側の製品スパナ掛け部に調節のきく適切な工具を掛けてねじ込んでください。(調節のきくレンチの代わりにパイプレンチを使用しないでください)



管を固定し、管に遠い側の製品スパナ掛け部に工具を掛けてねじ込まないでください。(製品が強くなじられるためNG)



製品スパナ掛け部以外にレンチを掛けないでください。



製品を固定せず、管をねじ込まないでください。(製品が強くなじられるためNG)

△注意
使用上の注意

- 解体 体一仕切弁や玉形弁を配管作業の都合により解体すると、解体部の損傷や適正なトルクで締付け出来ない等で、漏れが発生する恐れがあります。この場合はメーカー保証はできませんのでご注意ください。
- ハンドル操作 一仕切弁と玉形弁の開閉操作は、必ず手作業で行い、過度な閉め込みやハンドル車の破損を防ぐためハンドル回しなどの工具は使用しないで下さい。制限トルクは日本バルブ工業会発行の「JV3:バルブユーザーガイド」、または弊社総合カタログ記載の数値を参照ください。
- また、全開(全閉)の位置にあるバルブを、更に開(閉)方向に回さないでください。故障の原因となる恐れがあります。
- バルブ開度 一仕切弁は必ず「全開」または「全閉」で使用してください。
- また、玉形弁も振動が生じるような「半開」や「微開」での使用はしないでください。弁箱弁座や弁体弁座・弁棒の損傷に繋がる恐れがあります。
- 配管支持 配管による過度な曲げモーメントが製品に掛からないように、適宜サポートを設置してください。バルブが変形し漏れの原因となります。